

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 支援 - 10

学校名・団体名	仙台市立高砂中学校
HPアドレス	<a href="http://www.sendai-c.ed.jp/~takajh/">http://www.sendai-c.ed.jp/~takajh/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	東部中との交流活動「さくらプロジェクト」

#### 〈活動・研究の意義、目的〉

震災から6年が経過し、当時の生徒や教職員が築き上げてきた「さくらプロジェクト」のねらいであった「学校と地域の復興」については、おおよそ達成することができたと考えている。また、今後は、さくらがつなげた友情・協力の絆を風化させないよう、語り継ぐことが大切であるとも考えている。昨年度は両校で交流を語り継ぐ歌「高東桜歌」をつくり、学校で練習した後、その様子をDVDに収録し東部中へ送った。今年度はより深い交流を実施したい。目標としては、両校で「高東桜歌」を合唱することであるが、可能ならば、実際に生徒代表が東部中を訪れ、これまでの復興への協力に対する感謝の気持ちを伝え、両校で対面し「高東桜歌」を歌い、語り継ぐ意思を再確認したい。

内容及び方法としては、生徒会執行部の生徒を核としたリーダー及び担当教職員が中心となり、今年度の交流の方針を決定する。秋季休業の期間中を利用し、生徒代表で東部中を訪問し、復興に対する感謝と、今後も絆を深める活動を行いたい。その他の交流内容として「高東桜歌」の合唱と9月に行われる文化祭での交流、3月に行われる復興プロジェクトでの交流を考えている。東部中学校の生徒会及び交流担当の教職員と話し合いを進め、実施していきたい。

震災から6年が経過し、被害が大きかった地域でも風化が始まっていると感じる。今年度入学した中学1年生は震災時未就学であり、震災の記憶が曖昧であることが大きな原因である。しかし、この地域に生まれ、育った高砂中の生徒たちには「震災時にこの地で何が起こり、学校や地域はどのような苦勞をしたのか。そして、それに対し、周囲からどのような支援を受けたのか。」を知ってもらい、語り継いでもらいたい。また、人とのつながりを通して震災の状況、協力することの大切さを学ばせたい。

〈活動時期と内容〉

平成 29 年 10 月 10 日 (火) ~平成 29 年 10 月 11 日 (水) に本校生徒 33 名と本教職員 7 名が長野県伊那市立東部中学校を訪問し、交流活動を実施した。

平成 24 年から長野県伊那市立東部中学校と交流活動を実施している。その経過は以下の通りである。

平成 24 年	本校のソメイヨシノが津波の塩害により、枯れてしまった。その後、伊那市立東部中学校からの申し出により、長野県の天然記念物に指定されているタカトオコヒガンザクラの苗木 2 本が植樹されることとなった (さくらプロジェクト)。 東部中学校とスカイプを活用した交流を行う。
平成 25 年 7 月	東部中学校と高砂中学校の両校合同の絆宣言を行う
9 月	本校教諭 2 名が東部中学校、高遠城址公園視察
平成 27 年 4 月	東部中学校音楽科教諭が本校合唱コンクールの審査員として来仙
7 月	東部中学校生徒来校
8 月	東部中学校文化祭 (すず竹祭) にスカイプで参加
10 月	本校生徒、教職員約 40 名が東部中学校、高遠城址公園訪問
平成 28 年 3 月	本校「故郷復興プロジェクト」にて、東部中学校とスカイプ交流
8 月	東部中学校生徒来校 「さくらソング (仮)」の制作開始
10 月	東部中学校文化祭 (すず竹祭) にスカイプで参加 「さくらソング (仮)」を東部中学校合唱部が初披露
11 月	本校全校生徒で「さくらソング (仮)」を合唱
12 月	「さくらソング (仮)」の名称が「高東桜歌 (たかとうさくらうた)」に正式決定
平成 29 年 3 月	本校「故郷復興プロジェクト」にて、東部中学校とのスカイプ交流
10 月	本校生徒、教職員約 40 名が東部中学校、高遠城址公園訪問

伊那市立東部中学校とは、震災以降、さくらを通じた交流活動を継続的に行ってきた。今年度は、本校の生徒と教職員約 40 名が東部中学校と高遠城址公園を訪問した。

1 日目の東部中学校訪問では、生徒集会と部活動交流を行った。生徒集会では、①両校の文化祭の振り返り②防災に関する意見交換③さくらプロジェクトのシンボルマークに関する意見交換④両校による「高東桜歌」の合唱 の 4 つの活動を行った。

②防災に関する意見交換の中では、防災について日頃から大切にしていることを、両校の生徒が発表した。高砂中学校からは東日本大震災での経験を踏まえ、地震や津波から身を守るために、防災学習を通して学んでいることなどを発表した。東部中学校からは、土砂災害などを想定した防災に対する取組について発表があった。

④両校による「高東桜歌」の合唱では、今回初めて両校が揃って合唱をすることができた。この「高東桜歌」は、「さくらプロジェクト」の歴史を振り返る歌で、両校の生徒会が中心となって作詞作曲した特別な曲である。これまで、互いに歌っている様子を動画にまとめたものを交換したり、スカイプなどを利用して同時刻に歌ったりするなどの取組があったが、両校生徒が集い、一緒に歌うことができたのは、「さくらプロジェクト」を今後も継続的に行う上で大変意義深いことである。また、部活動交流では、部活動ごとに一緒に練習をしたり、競技に対する意見交換をしたりすることができた。特に部員全員が交流活動に参加した女子バレーボール部は練習試合を行い、より交流が深まるきっかけとなった。

2 日目の高遠城址公園の訪問では、高遠城址公園でさくらの管理をしている「桜守」の方からお話を伺いながら、公園内を散策した。「桜守」の方は、さくらを育てていく上で「さくらをよく見ること」が重要であると繰り返し話していた。本校の 2 本のさくらも、この高遠城址公園から植樹されたものである。「桜守」の方の話は生徒の心に深く響き、さくらをより大切にしようとする意識が高まったと感じる。





#### 〈生徒の感想〉

東部中の皆さんは、本当に心のこもった歓迎をしてくれ、胸が熱くなりました。高砂中の先輩方が「タカトオコヒガンザクラ」を通し、つないできた東部中との絆の深さを知りました。私たちが東部中との交流を未来へとつなげていかなければならないという使命感のようなものが生まれました。(2年女子)

東部中の人たちは、合唱の時に一人一人が声を大きく出していました。それを合唱部の人たちが支えながら歌っていて、とてもきれいな歌声でした。私たちと一緒に高砂中の校歌を歌ったときには、最後まで歌詞を覚えてくださり、とても嬉しく思いました。(1年女子)

全校集会の質疑応答に際し、誰でも手を挙げて発言できる雰囲気がありました。高砂中でも全校が集まった時に、誰でも発言できる時間を作るとより良い学校になると思います。東部中では音楽集会の時に、指揮者の人に対して返事をしていたので、高砂中でも「はい」という返事をする文化を作ると、全員がその会に参加しているという意識が高まると思います。(1年男子)

私が東部中訪問で驚いたことは、高中生よりも東部生の方が「高中魂」を持っているところです。東部中生は、人とすれ違う時、毎回挨拶をしてくれました。その挨拶は、相手の目を見て、しっかり頭を下げており、「元気にあいさつ」そのものでした。そして、校歌を歌う場面では、全員胸を張っていて、口も大きく、声量もあったので「元気に校歌」もできていました。それらの姿から「何事にも全力投球」しているのだなと感じました。代表だけではなく、全校生徒が「高中魂」を持つ、東部中の姿を目指し、頑張りたいと思いました。(2年男子)

東部中訪問で驚いたことは、全校生徒が積極的に手を挙げて発言するところです。合唱練習にも全ての学年が熱心に取り組んでいました。また、指揮者が全校生徒に対して臨機応変に声掛けをしており、それに対する返事もすばらしいと思いました。行動もてきぱきとしており、自分たちも真似したいと感じました。(2年女子)

2日目の桜守さんの話の中で「大切に育てれば桜に寿命はない」ということを聞きました。そこから、高砂中の桜も永遠に生き続けられるようにしたいと思いました。また、「桜守の仕事のほとんどは、見て観察し、世話をすることである」ということに驚きました。今回学んだことを全校に広めたいと思いました。(2年男子)

#### 〈活動全体を通して〉

今回の教育活動の成果として、以下の2点が挙げられる。

第一に、交流活動をより深めることができたことである。東部中学校とは、2本の「タカトオコヒガンザクラ」を寄贈(さくらプロジェクト)していただいて以来、様々な交流活動を行ってきた。その中でも大きな事業として、このさくらプロジェクトのテーマソングである「高東桜歌」の制作が挙げられる。昨年度から両校の生徒会が中心となって制作を行い、それぞれの学校で歌ってきたが、両校生徒が一堂に会し歌うことができなかった。今回の交流活動の中で両校生徒と一緒に歌ったことにより、感動的な合唱となったのはもちろん、両校の絆の深さを実感することができた場面であった。また、両校の校歌を合唱することができたことも本校の生徒にとって、絆の深さを実感できるものであった。

第二に、生徒会活動に関することである。東部中学校は非常に生徒会活動が盛んな中学校である。前述の「さくらプロジェクト」も生徒会が発案したものである。今回の交流会でも生徒会が中心となって運営された。800名を超える全校生徒に的確な指示を出しそれにきちんと応える全校生徒の姿は、本校の生徒にとって強く印象に残るものであった。また、東部中学校の生徒は、全校集会であったとしても挙手をして堂々と自分の意見を発表するのが当たり前であった。生徒の感想文には、「その積極性を見習いたい」「高中でも同じようにしなければならない」という記載が非常に多く、本校の生徒会活動が更に発展していくことが期待できる。

実際に東部中学校や高遠城址公園を訪れることで、この交流活動の意義やこれまで受けた支援について改めて考えることができたと感じる。震災から6年が経過しようとしており、地域の復興も大きく進んだ。その一方で、「震災の風化」も危惧されている。現中学2年生は、震災時小学校1年であり、いずれ震災を知らない世代が入学してくる。「震災の記憶」が忘れ去られることを防ぐために、この交流活動を新たな伝統とする必要がある。その伝統を作り上げるのは現在の中学校1、2年生であり、今回東部中学校を訪問した生徒が中心となっていく。今後は、実際に東部中学校や高遠城址公園で学んだことを広め、交流活動を伝統として根付かせるための活動を行っていききたい。